

# 名前に見るジェンダー意識の変遷

「かっこいい音」が好まれる

澁谷渚々子

はじめに

エドワード・サピアによる、大きな机と小さな机では[mal][mil]という名前を付けたときにどちらの方が自然に感じられるか、という音象徴の実験について知り、「音と意味のつながりは恣意的である」という観点について、興味深く感じたため研究として取り上げた。

その中で、「男の子の名前に使われている子音には阻害音が多く…、女の子の名前の場合には共鳴音が多い（音と言葉のふしぎな世界、川原繁人、P17）」という視点に、昨今のジェンダー観の変遷により、その違いに変化があるのではないかと考えた。

そこで、自分たちと親世代とではどのような差があるのかを、「実際に我々の世代に多い名前」と、「我々自身が魅力的だと感じる名前」とについての差から見ることにした。

以上のことより、ジェンダー観の変化は名前に表れるのかを検証する。

## 方法

明治安田生命が発表している2004年生まれに多い名前ランキング20位まで、また19-25歳24人(男性11人,女性12人)にとったアンケート「自分が魅力的だと感じる名前」に挙げられた名前にそれぞれ使われている子音のうち、阻害音の割合を求めた。

## 結果

男性女性いずれの場合でも、実際に多い名前よりも、魅力的だと感じる名前の方が含まれる阻害音の方が割合が高かった。また、特に女性の方がその差が大きかった。

# 阻害音(かっこいい、中性的な名前)を好む人が増えている

阻害音の割合 (%)	男性	女性
多い名前	63.0	37.2
魅力的な名前	69.0	50.0

図1 上段：2004年生まれの子供につけられた名前が多かった順に20位まで取り出し、その名前に含まれる子音のうち阻害音の割合  
下段：19-25歳対象のアンケートをもとに「魅力的だと感じる名前」を挙げ、それに含まれる子音のうち阻害音の割合

## 考察

2004年生まれの人に名前をつけるのは、現在4,50代、すなわち1980年前後生まれの人が多く、一方で、2004年前後生まれの人は所謂Z世代と呼ばれ、中高生年代のうちにLGBTQ等の話題に触れる機会があり、ジェンダーについて比較的柔軟な考え方を持っている傾向がある。そのため、名前についても「男性っぽい」「女性っぽい」といったことには捉われず、またその意識があっても敢えて中性的な名前に魅力を感じる人が多いように見受けられる。

そういった事を背景に、今回の調査では20歳前後の人たちは2,30歳年上の人たちに比べ、より「中性的」な名前を好む意見が多かった。中でも、女性が「かっこいい」からという理由で魅力的な名前を選んでいる意見が複数見受けられた。またこれは主に東工大生を中心とする理系女性に意見を聞いたため、ここまで顕著にみられたのではないかと思う。

## おわりに

以上のことより、世代間のジェンダーへの感覚の差は、意識の表面に表れないところで音の恣意的な側面と結びつき、名前に表れていると言える。

## 文献

川原繁人(2015), 音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで, 岩波科学ライブラリー, 株式会社岩波書店.

## 参考資料

明治安田生命保険相互会社ホームページ名前ランキング「名前ベスト100」2004年版